

日本—欧州五か国 国際共同研究「持続可能な社会のためのスマートな水管理」 2020 年度 年次報告書	
研究課題名（和文）	「スマートシティにおける水再利用のための組織的意思決定フレームワーク（SMART-WaterDomain）」
研究課題名（英文）	Framework for Organisational Decision-Making Process in Water Reuse for Smart Cities（SMART-WaterDomain）
日本側研究代表者氏名	福士 謙介
所属・役職	国連大学サステナビリティ高等研究所 アカデミック・プログラム・オフィサー
研究期間	2021 年 2 月 1 日 ~ 2023 年 3 月 31 日

## 1. 日本側の研究実施体制

氏名	所属機関・部局・役職	役割
福士謙介	国連大学サステナビリティ高等研究所（UNU-IAS）アカデミック・プログラム・オフィサー	研究統括、他機関とのコーディネーション、モデル基幹部分のデザイン
Saroj Chapagain	UNU-IAS リサーチ・フェロー	研究統括補佐、水処理施設等の解析
Geetha Mohan	UNU-IAS リサーチ・フェロー	経済分析
藤塚哲朗	UNU-IAS アドバイザー	日本の水処理技術調査の支援
稲村由佳子	UNU-IAS コンサルタント	プロジェクト管理、日本の水処理技術のレビュー作成、モデルの構築
吉永恵実	UNU-IAS プログラム・コーディネーター	プロジェクト管理支援、協力大学との連携支援・広報実施支援
梅津茜	UNU-IAS プログラム・アソシエート	資金管理・物資調達・広報実施支援・出張会議手配

## 2. 日本側研究チームの研究目標及び計画概要

日本側の 2020 年度の研究目標は、研究全体の工程にならない、

- 1) WP 1（水再利用に関する既存の知見に関する調査）、WP 2（水再利用の導入障壁調査）で必要なデータ、調査票の策定、対象産業・企業の選定を行う。2020 年度内に行われる全チーム会議（オンライン）の機会に全チームで協議し、現実的・効率的な設計となるよう心掛ける。
- 2) WP1 及び WP2 実施を通し、日本における水再利用の現状・事例・潜在的機会等を把握する。
- 3) WP6（プロジェクト管理・アウトリーチ）の一環として、情報共有や広報に関する協議を行い、内部関係者の協力体制を確立する。

チーム全体の情報共有はプロジェクトガバナンス会議を通して行うが、研究代表である UNU-FLORES とは頻りに個別協議を持ち、数多い関係者間の情報共有の在り方や役割分担の整理を含め、運営面の効率性を確保する。

## 3. 日本側研究チームの実施概要

日本側の 2020 年度の実施概要は、以下の通り。

- 1) WP1  
水資源データ（2015～2017）、気候データ（2015～2019）、WWTP データ（再生水を提供している香川、長崎、東京の 8 処理場）、関連法令データを WUELS へ提出
- 2) WP2
  - アンケート共通調査票・依頼レターの日本語版作成
  - アンケート調査の対象業者選択
- 3) WP6  
2021 Bratislava Conference on Earth System Governance（スロバキア、2021 年 9 月 7～9 日）へプロポーザル提出
- 4) その他  
9 つの共同研究機関による共同研究覚書(CONSORTIUM AGREEMENT)の締結  
参加研究機関：UNU-IAS, UNU-FLORES, TUD, WUELS, LODZ, CZ-GLOBE, IFE SAS, EI, NRC-LIT